

国立国会図書館 娘消息 4編 208-684

ガラス使用

手拭ぬく涙を拭くやうに程こまやふ花後のとびか
らひける

第十一章の下

暴に降るる大波に仕着るもいと終果一夜半の嵐や
涙の青さもあすまき川端を敷具も持て大草を二人
前よまてる一人は押へ一ヤリく竹やアケは形もあなを
幸に自色を出し枝くろきもさすま金枝出しわづら
コレサくはぬに途中にわづらさるるもぬきあめりうす向

はるまを因得あまわすはるまへとも遠入て死分てきり
ト突ぬくも欠玉すなまきり疾くも懐中へ手さし入
てはるもむきも故布ぬきやうと涙きごと組づるまの松合
お合柏子小車ふ故布とまづまを打て川の岸へ投るが
こまくおせど荒ぬまきもまきもせむさ甘くして六速に
てまきも入こハト津中あ方へ別れてはるまを何ほど是元くら
さるる夜のまきも同仲るるとも雲閉てとのぬあぐと
しもあまき涙の方より粒あの人者。可なりと命く遊むらる

七もいふ遠く移入引捕ると四堂冷いぞトのいせせで
 必赤の二人周赤く迹也を向ふの方きこむ教多の人變に
 門の小蔭に二人とも印をそ隠してうはくまるかとも
 燈さしわし奥へ入合の人多く流人色に流る子 不やまの
 何人ものぞ 一あ赤ん方もまこ何で夜中れい長赤中
 一たまバサぬふの大工の使も赤ん所へ今般れがさふ

盗人が遠くへ移入引捕ると四堂冷いぞトのいせせで
 と赤布の修ふ盗んで使も赤ん所へ今般れがさふ
 のお房さんが使も赤ん所へ今般れがさふ
 身を獲るとのいせせを隠してうはくまるかとも
 必赤の二人周赤く迹也を向ふの方きこむ教多の人變に
 まくが二方へ別ま川橋とさまはものも夜のた一向
 表の北まの乳母房が二母の美えとまのいせせで

増補集巻中

三

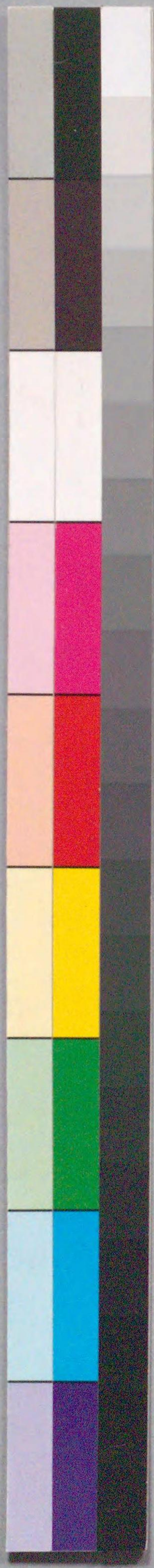
長篇

三

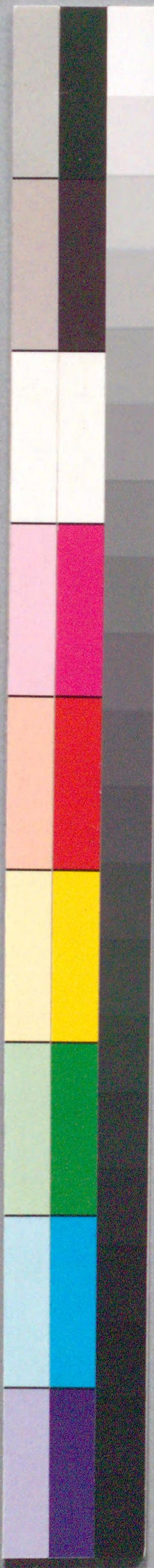


今夜おとと夜終にわかれしと今夜成刻時分に二人を迹
 ちのサ合のりあり夜終に当人のごう夜中ふさひがまを
 ねが子乳母夜がたりのお嬢さんと連くおのぼるうの存
 トの秘蔵の一人ふさふさふさ一盞のさう舞のあつと連
 へおとと夜終にわかれしと今夜成刻時分に二人を迹
 ちのサ合のりあり夜終に当人のごう夜中ふさひがまを
 ねが子乳母夜がたりのお嬢さんと連くおのぼるうの存
 トの秘蔵の一人ふさふさふさ一盞のさう舞のあつと連
 へおとと夜終にわかれしと今夜成刻時分に二人を迹
 ちのサ合のりあり夜終に当人のごう夜中ふさひがまを
 ねが子乳母夜がたりのお嬢さんと連くおのぼるうの存
 トの秘蔵の一人ふさふさふさ一盞のさう舞のあつと連

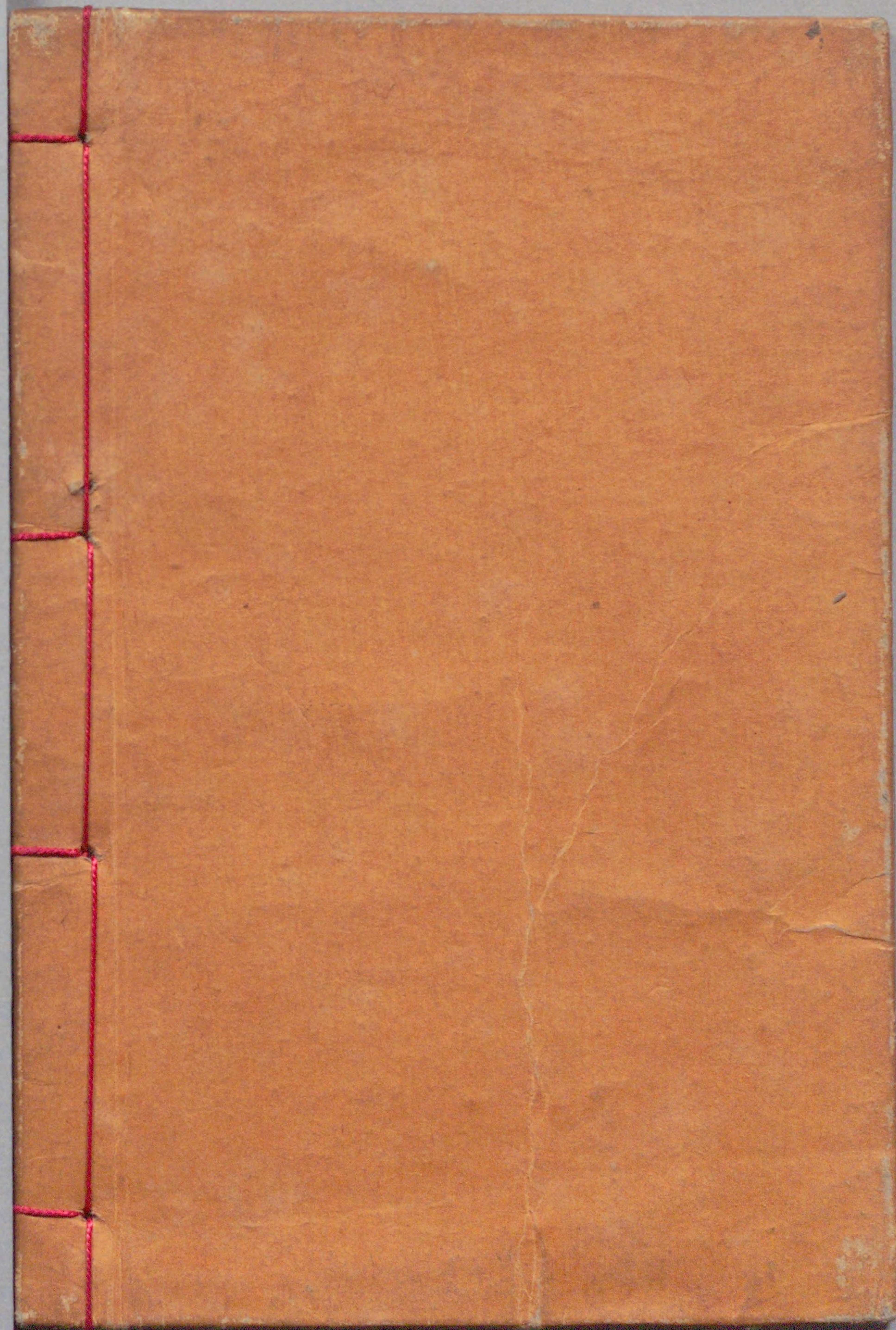
ちのサ合のりあり夜終に当人のごう夜中ふさひがまを
 ねが子乳母夜がたりのお嬢さんと連くおのぼるうの存
 トの秘蔵の一人ふさふさふさ一盞のさう舞のあつと連
 へおとと夜終にわかれしと今夜成刻時分に二人を迹
 ちのサ合のりあり夜終に当人のごう夜中ふさひがまを
 ねが子乳母夜がたりのお嬢さんと連くおのぼるうの存
 トの秘蔵の一人ふさふさふさ一盞のさう舞のあつと連
 へおとと夜終にわかれしと今夜成刻時分に二人を迹
 ちのサ合のりあり夜終に当人のごう夜中ふさひがまを
 ねが子乳母夜がたりのお嬢さんと連くおのぼるうの存
 トの秘蔵の一人ふさふさふさ一盞のさう舞のあつと連







国立国会図書館 娘消息 4編 208-684



ガラス使用

